厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 令和 6 年度 分担研究報告書

静岡県における抗菌薬使用に関する地域連携と休日夜間急患センターでの OASCIS の活用

研究代表者 氏名

宮入 烈 浜松医科大学 小児科

研究協力者 氏名

荘司 貴代 静岡県立こども病院 感染症科

古橋 一樹 浜松医科大学 感染対策室

磯部 裕介 浜松医科大学 小児科

研究要旨

全国の休日夜間急患センターの抗菌薬適正使用を進めるためには、各施設内での処方状況の集計をいかに効率良く、正確に行うことができるかが重要である。AMR 臨床リファレンスセンターによる診療所版 J-SIPHE[診療所における抗菌薬適正使用支援システムOASCIS]を浜松市の休日夜間急患センターで運用を行いその結果を地域にフィードバックした。また地域医療圏での抗菌薬サーベイランスを継続していくために、抗菌薬処方についての現状を共有することは重要と考える。

A. 研究目的

休日夜間急患センターは多数の患者が訪れ、単施設で複数の医師が出務しており、地域の 医師会を中心に出務・運営されていることが 多い。当研究班は急病センターにおける抗菌 薬処方動向調査と教育的な介入は地域全体に も波及する可能性があると仮説をたて兵庫県 を中心とした活動を全国の複数地域に展開 する準備を進めてきた。診療所版 J-SIPHE 「OASCIS(Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics:診療所 における抗菌薬適正使用支援システム)」を 浜松市の休日夜間センターに導入し継続し てデータの収集を行った。

また静岡県医療圏内の外来感染対策向上 加算の施設基準としての感染対策に関する カンファレンス、加算1施設に対する抗菌 薬の使用状況の報告のためクリニックでの 抗菌薬使用状況について質問調査を行い介 入への課題について検討する。

B. 研究方法

浜松市夜間救急室から OASCIS を運用して抗菌薬処方データを収集した。2024年度も継続してデータ収集を行っている。

また浜松医療圏で浜松医師会、浜北医師会、 浜名医師会に抗菌薬使用や OASCIS 導入に ついて google form でアンケートを行い OASCIS 導入に必要なことや抗菌薬の簡易 的な使用状況の確認を行った。

C. 研究結果

浜松市夜間救急室を OASCIS に登録し、 2019 年 7 月から 2024 年 3 月までの UKE ファイルを匿名化し OASCIS に登録した。 2023 年度までの集計結果を News Letter と して作成した。(図 1)2024 年も引き続きデ ータ収集を行ったため結果についてフィー ドバックの準備を進めている。

浜松市医師会、浜名医師会、浜北医師会に感染対策向上加算連携施設に対してOASCIS の加入を呼びかけ 2025 年 1 月時点で39 施設が導入している。徐々に加入施設は増加傾向にある。またレセコンの仕様状況やメーカーを確認しより効果的な加入への呼びかけについて検討している。連携施設の増加に伴い各施設の処方頻度の高い抗菌薬はペニシリン系が徐々に増加していることが明らかになった。(図 2)引き続き連携施設の増加に必要なことを考察していく。

D.考察

OASCIS を休日夜間急患センターで実装した受診患者の全年齢における抗菌薬処方動向をとらえ、フィードバックを継続して行っている。徐々に抗菌薬の処方割合は減少傾向にあるが、まだ広域抗菌薬の処方割合は多く、抗菌薬適正化のために引き続き情報共有を行う必要がある。またマイコプラズマの流行に伴うマクロライド使用量の増加について注意が必要である。

OASCIS を医療機関に導入しやすい環境を整備していくためレセコンの状況やメーカーについて確認しマニュアル作成を検討している。引き続き OASCIS の登録を推し進めるとともに地域連携を軸とした導入の方法を検討していく。

E. 結論

休日夜間救急センターでの抗菌薬処方 内容についてのフィードバックを継続し、 広域抗菌薬の処方動向を引き続きモニタリングを行う。地域の OASCIS 導入に向けて必要な条件を引き続き調査していく。

F. 健康危険情報 特になし

G. 研究発表

- 1. 論文発表なし
- 2. 学会発表

Yusuke Isobe, Mikihiro Shimizu, Isao Miyairi: Antimicrobial use by age at an urgent care center in JAPAN before and after the pandemic:2022 March.22nd Annual St. Jude/PIDS Pediatric Infectious Diseases Research Conference

磯部 裕介, 清水 幹裕, 宮入 烈.OASCIS を 使用した休日夜間救急センターにおける抗 菌薬処方動向報告 第 55 回日本小児感染症 学会総会・学術集会

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

参考文献

なし

図1 浜松市夜間救急室の抗菌薬処方割合

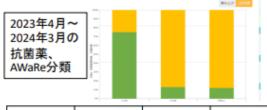
AMR NEWS LETTER vol 1

浜松医科大学(小児科:宮入烈教授、感染制御センター:古橋一樹センター長)の厚生労働省研究班はこれからの世代に抗菌薬を残すべく、様々な取り組みを行っています。活動の一つで浜松市夜間救急室の抗菌薬処方調査を行っています。サーベイランスプラットフォームである診療所版J-SIPHE、OASCIS(https://oascis.ncgm.go.jp/)を使用した本施設の抗菌薬処方動向を共有させていただきます。





気道感染症患者への抗菌薬処方割合は減少傾向にあります。 COVID-19流行以前よりも処方割合が減少していることは注目すべき点です。



	0-15歳	15-64歳	65歳以上
Watch	25.85%	87.56%	88.11%
Access	74.15%	12.44%	11.89%

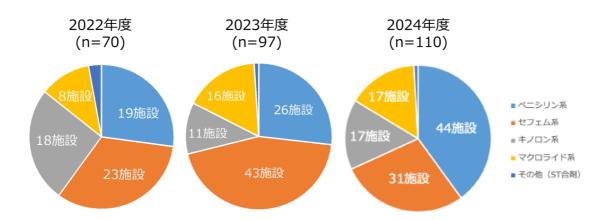
AWaRe分類: 薬剤耐性リスクからの抗菌薬分類
Watch: 耐性化を考慮し限られた適応に使用すべき薬剤例: 第三世代セフェムマクロライド、ニューキノロン

Access:耐性化の懸念が 比較体少ない薬剤 例:ペニシリン系 第一世代セフェム系

OASCISでは抗菌薬のAWaRe分類の使用率を上記のように確認できます。 適正使用の観点からはAccess群の処方割合を上げる必要があります。 (抗菌薬適正使用体制加算は60%以上の使用比率を目標としています) 夜間救急室の2023年11月~2024年4月のAccess比率は全体では17.43%で OASCIS登録施設1363施設中719位、比率順位は52.72%でした。

新興-再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 「小児領域を含む薬剤耐性感染症対策に係る地域間連携の標準モデルの策定・推進に 資する研究」(23HA1002) 研究代表者 宮入烈 文音 東京都立小児総合医療センター 感染症科 磯郎裕介

各施設において処方頻度が<u>最も高い</u>経口抗菌薬 (年度別)



AMRアクションプラン達成に向けて

参加施設の増加、ペニシリン系の使用頻度の増加 → 今後はOASCIS導入へ